

本社オフィスをリニューアル

中央復建コンサルタンツは、本社オフィスのリニューアルを進めており、このほど1階ロビーと4階から7階の執務空間が完成した。好奇心を大事にする同社らしく、何かを始めるきっかけや考えを知ることなどを意識し、ロビーの名前を『1TTAN（いったん）』と名付けた。



中央復建コンサルタンツ

オフィスリニューアルは、2021年度から始まった。当時、22年度から24年度までの中期経営計画を策定する中、オフィスの環境づくりを検討していた。中矢昌希計画部門技師長兼管理総務本部本部長スタッフは「当社の価値向上やウェルビーイング

グにつながる環境を求めている」と振り返る。22年度に基本設計、23年度に実施設計を進め、24年7月に着工した。

設計にはエトアスタジオと溝部礼士建築設計事務所、グリーン・ワイズ、森山茜Studio Akane Moriyama、杉尾篤照明設計事務所が協力したが、アイデアは自社で発案した。部門を横断したベテラン社員と中堅・若手社員で構成するタスクフォースを立ち上げ、建築設計事務所のオフィスや庭園、鳥取県の林業現場などを訪れながら、執務空間を検討した。

大角和輝環境・防災部門流域治水グループサプリーダーは、

好奇心を後押し

22年度からタスクフォースに参加。「リニューアルの計画が進んでいることは知っていたが、中矢技師長の指名もあり参加を決めた」と述べる。24年度からタスクフォースに参加した鉄道部門地下鉄道グループの森本夏実氏も「参加した当初は不安もあったが、意見は言いやすかった」という。

『1TTAN』にはきっかけづくりの「一旦（いったん）」と考えた「一端」、チームの「一端」などの意味が込められている。ロビーには、講演や展示、イベントなどができる『パーク』、交流や打ち合わせに使用する『Cスタ』、多面的に映像を映す『Xスタ（クロススタ）』、交流用のカウンター、本棚などが配置されている。

「たのではないか」とプロジェクトの効果語る。

ロビーが完成し、大角サプリーダーは「以前はパーティションで区切られていたが、開放感があるロビーとなった」と手応えを口にし、加藤マネージャーは「以前は各部屋などの役割が決まっていたが、それが曖昧になった分、逆に自由度が増した」と話す。森本氏は「同期10人以上が入れるソファースペースは配置も変えられるため、気に入っている」と笑顔を見せる。

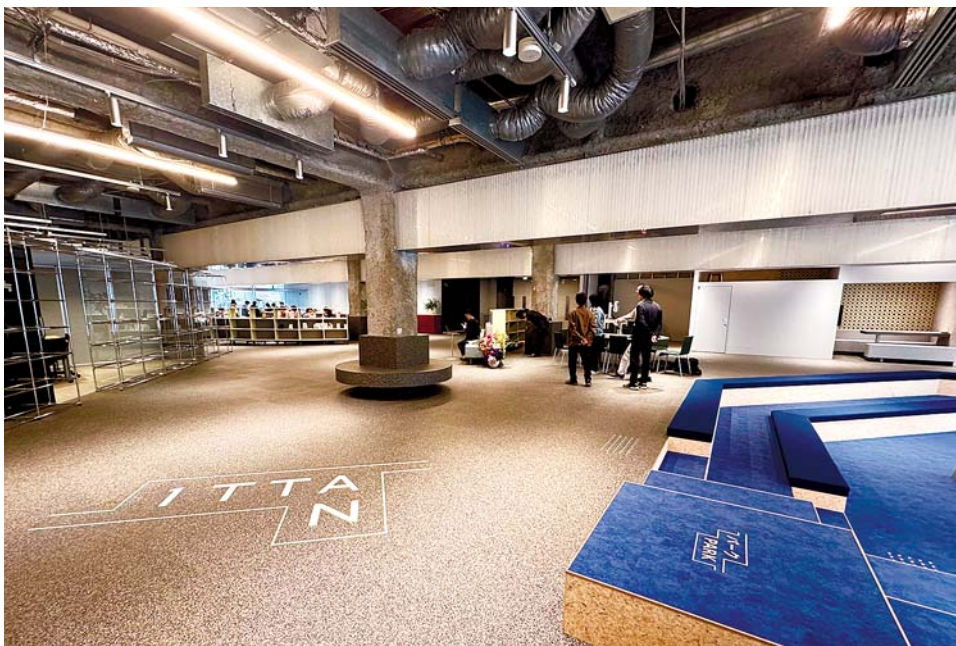
リニューアルは3段階に分けて進めており、今回は第1弾工事となる。25年度は屋上と中庭を整備する。環境グループの仕事につながるフィールドとするほか、野菜を栽培するスペース、園芸部の活動に使う場所を設ける予定だ。中庭にはビオトープをつくる。26年度に3階と8階の執務空間をリニューアルし、全体完成を迎える。



左から中矢技師長、大角サプリーダー、森本氏、加藤マネージャー

テーマは『1TTAN』

完成した1階ロビー『1TTAN（いったん）』



26年度に3階と8階の執務空間をリニューアルする